



発行

〒108-8639 東京都港区白金台4-6-1

東京大学医科学研究所

<https://www.ims.u-tokyo.ac.jp/imsut/jp/>

TEL >>> 03(3443)8111

FAX >>> 03(5449)5402

編集 >>> プロジェクトコーディネーター室・管理課

令和2年8月発行

東京大学
医科学研究所
概要

2020

THE INSTITUTE OF MEDICAL SCIENCE
THE UNIVERSITY OF TOKYO



世界の頂点を目指す

人類社会の発展と福祉への貢献

東京大学医科学研究所は、明治25年（1892年）に北里柴三郎博士により設立された大日本私立衛生会附属伝染病研究所を前身とし、昭和42年（1967年）に医科学研究所に改組されました。この明治、大正、昭和、そして令和へと受け継がれてきた128年の歴史を背景に、医科学研究所は生命現象の普遍的な真理と疾患原理を探究し、革新的な予防法・治療法の開発とその社会実装による人類社会全体への貢献を目指しています。そのために、情報科学、理学、工学、農学、薬学、医学、倫理・公共政策学などの様々な学問が「医科学」をキーワードとして互いに触発して発展する自由で学際的な研究環境を重視し、個々の研究者や医療者が、それぞれの知的好奇心に突き動かされて行う独創的な研究、技術開発、先端医療を推進しています。具体的には、感染症やがん、免疫・神経・筋疾患などの難治性疾患の制圧を目指し、ゲノム医学、再生医学、疾患モデル動物などを課題とするプロジェクト型研究を展開すると共に、遺伝子・ウイルス治療や細胞治療、ワクチン開発、AI医療等の先端医療開発を推進しています。

以上の課題を達成するために、医科学研究所には自由な発想に基づく基礎・橋渡し研究を推進する基幹研究部門として基礎医科学部門、癌・細胞増殖部門、感染・免疫部門の3部門が設置され、また、多様な研究成果の社会実装に必要な最重要課題に取り組むセンター・施設として、生命科学に特化した国内最大の演算性能をもつスーパーコンピュータ（SHIROKANE）を擁するヒトゲノム解析センターや先端医療研究センター等の7センター、5研究施設が設置されています。さらに、国立大学附置研究所で唯一の附属病院では、世界トップレベルの研究成果に基づく臨床試験や先端医療が進められています。その上に、一昨年、我が国の附置研究所の中で、生命科学系では唯一の国際共同利用・共同研究拠点に認定され、世界的な枠組みでの基礎・臨床研究が加速されています。現在、本体である白金台キャンパスに加え、アジア感染症研究拠点（北京）や奄美病害動物研究施設（奄美大島）等にも教職員を派遣するなど、本学大学院の8研究科に所属する200名超の学生を含め、1,000名を超える教員、事務・技術・病院職員、研究員等が活躍しています。



東京大学 医科学研究所 所長

山梨裕司



THE INSTITUTE
OF MEDICAL SCIENCE
THE UNIVERSITY
OF TOKYO

Contents

— 所長挨拶	・・・ 1
— 機構図	・・・ 3
— 歴史／歴代所長・病院長	・・・ 5
・感染・免疫部門	・・・ 7
・癌・細胞増殖部門	・・・ 7
・基礎医科学部門	・・・ 8
・ヒトゲノム解析センター	・・・ 9
・システム疾患モデル研究センター	・・・ 9
・先端医療研究センター	・・・ 10
・幹細胞治療研究センター	・・・ 10
・感染症国際研究センター	・・・ 11
・国際粘膜ワクチン開発研究センター	・・・ 11
・遺伝子・細胞治療センター	・・・ 11
・実験動物研究施設	・・・ 12
・奄美病害動物研究施設	・・・ 12
・遺伝子解析施設	・・・ 12
・疾患プロテオミクスラボラトリー	・・・ 13
・アジア感染症研究拠点	・・・ 13
・東京大学特任教授部門	・・・ 13
・附属病院	・・・ 14
・寄付研究部門・社会連携研究部門	・・・ 15
・共通施設等／技術室／所長オフィス	・・・ 15
— 教育活動／近代医科学記念館	・・・ 16
— 予算／プロジェクト	・・・ 17
— 構成員	・・・ 18
— 国際学術交流	・・・ 19
— キャンパスマップ	・・・ 21
— アクセスマップ	・・・ 22

IMSUT Organization

IMSUT 機構図

研究部門

感染・免疫部門

部門長 三宅 健介 教授

- ウイルス感染分野
- ウイルス病態制御分野
- ワクチン科学分野
- 感染遺伝学分野
- マラリア免疫学分野

癌・細胞増殖部門

部門長 村上 善則 教授

- 人癌病因遺伝子分野
- 腫瘍抑制分野
- 癌防御シグナル分野

基礎医科学部門

部門長 武川 睦寛 教授

- 神経ネットワーク分野
- 分子シグナル制御分野

附属研究施設等

ヒトゲノム解析センター

センター長 山梨 裕司 教授

- ゲノムデータベース分野
- シークエンス技術開発分野
- 機能解析イン・シリコ分野
- 医療データ情報学分野
- メタゲノム医学分野
- ゲノム医科学分野
- シークエンスデータ情報処理分野
- 公共政策研究分野
- 健康医療インテリジェンス分野

システム疾患モデル研究センター

センター長 山田 泰広 教授

- 先進病態モデル研究分野
- 生殖システム研究分野
- ゲノム編集研究分野
- 自然免疫研究分野
- 遺伝子操作動物研究分野

先端医療研究センター

センター長 北村 俊雄 教授

- 分子療法人分野
- 感染症分野
- 先端がん治療分野
- 先端ゲノム医学分野
- 細胞療法分野
- 臨床ゲノム腫瘍学分野
- 先端医療開発推進分野
- 生命倫理研究分野

幹細胞治療研究センター

センター長 谷口 英樹 教授

- 再生医学分野
- 幹細胞移植分野
- 幹細胞プロセッシング分野
- 幹細胞生物学分野
- ステムセルバンク
- 幹細胞分子医学分野
- 幹細胞シグナル制御分野
- 幹細胞病理学分野
- FACSコアラボラトリー

感染症国際研究センター

センター長 河岡 義裕 教授

- 高病原性感染症系
- 感染制御系
- 病原微生物資源室
- (ウイルス学分野)(システムウイルス学分野)

東京大学特任教授部門

- 幹細胞治療部門
- 粘膜免疫学部門

国際粘膜ワクチン開発研究センター

センター長 石井 健 教授

- 粘膜バリア学分野
- 臨床ワクチン学分野
- 粘膜共生学分野
- 自然免疫制御分野
- 粘膜ワクチン学分野

遺伝子・細胞治療センター

センター長 岡田 尚巳 教授

- 分子遺伝医学分野

実験動物研究施設

施設長 真下 知士 教授

- 先進動物ゲノム研究分野
- 動物センター

奄美病害動物研究施設

施設長 真下 知士 教授

疾患プロテオミクスラボラトリー

施設長 山梨 裕司 教授

アジア感染症研究拠点

拠点長 川口 寧 教授

遺伝子解析施設

施設長 山梨 裕司 教授

(フロンティア研究領域)



伝染病研究所

1892

明治25年

大日本私立衛生会附属伝染病研究所設立
(芝区芝公園)

初代所長 北里柴三郎



1894

明治27年

芝区愛宕町に移転、
病院併設

ペスト菌の発見、
ジフテリア血清療法
(北里柴三郎)

1905

明治38年

芝区白金台町
(現港区白金台) に
移転

1915

大正4年

鼠咬症
スピロヘータの
発見
(二木謙三)

1914

大正3年

文部省に移管

1906

明治39年

建物(新・転築)竣工

1899

明治32年

内務省所管
国立伝染病研究所となる

1897

明治30年

赤痢菌の発見
(志賀潔)



*写真提供: 学校法人北里研究所

1934

昭和9年

1号館新築



1947

昭和22年

国立予防衛生研究所
(現国立感染症研究所) 設置、
約半数の職員が移籍

東京帝国大学が
東京大学となる

1935

昭和10年

日本脳炎の蚊媒介性の解明
(三田村篤志郎)

鼠径リンパ肉芽腫の
病原体(クラミジア)の発見
(宮川米次)

1930

昭和5年

ツツガムシ病の
病因(リケッチア) 決定
(長與又郎)



1916

大正5年

東京帝国大学
附置伝染病研究所となる

1952

昭和27年

トリコマイシンの発見
(細谷省吾)

1953

昭和28年

血液型糖脂質の発見
(山川民夫)

1965

昭和40年

実験動物
研究施設設置

1966

昭和41年

奄美
病害動物
研究施設設置

1955

昭和30年

多剤耐性赤痢菌の分離
(北本治)

1954

昭和29年

インターフェロンの
発見(長野泰一)



明治時代の伝染病研究所

歴代所長

- | | | | | | | | | | |
|----------------------------------|----------------------------------|----------------------------------|----------------------------------|----------------------------------|---------------------------------|----------------------------------|----------------------------------|----------------------------------|---------------------------------|
| ● 初代
■ 北里柴三郎
(1892-1914) | ● 事務取扱
■ 福原謙二郎
(1914-1915) | ● 第2代
■ 青山 胤通
(1915-1916) | ● 第3代
■ 林 春雄
(1916-1919) | ● 第4代
■ 長與 又郎
(1919-1934) | ● 第5代
■ 宮川 米次
(1934-1940) | ● 第6代
■ 三田村篤志郎
(1940-1944) | ● 第7代
■ 田宮 猛雄
(1944-1949) | ● 第8代
■ 長谷川秀治
(1949-1956) | ● 第9代
■ 武田 徳晴
(1956-1956) |
| ● 第10代
■ 長野 泰一
(1956-1958) | ● 第11代
■ 工藤正四郎
(1958-1965) | ● 第12代
■ 山本 郁夫
(1965-1968) | ● 第13代
■ 佐々 学
(1968-1971) | ● 事務取扱
■ 常松 之典
(1971-1971) | ● 第14代
■ 佐々 学
(1972-1973) | ● 第15代
■ 山本 正
(1973-1977) | ● 第16代
■ 下條 寛人
(1977-1979) | ● 第17代
■ 積田 亨
(1979-1983) | ● 第18代
■ 小高 健
(1983-1987) |
| ● 第19代
■ 豊島久真男
(1987-1990) | ● 第20代
■ 木幡 陽
(1990-1992) | ● 第21代
■ 廣澤 一成
(1992-1996) | ● 第22代
■ 吉田 光昭
(1996-1998) | ● 第23代
■ 新井 賢一
(1998-2003) | ● 第24代
■ 山本 雅
(2003-2007) | ● 第25代
■ 清水 元治
(2007-2011) | ● 第26代
■ 清野 宏
(2011-2015) | ● 第27代
■ 村上 善則
(2015-2019) | ● 第28代
■ 山梨 裕司
(2019-) |

医科学研究所

1967

昭和42年

伝染病研究所を
医科学研究所に
改組

2号館新築



1980

昭和55年

3号館新築
遺伝子解析施設設置



1991

平成3年

ヒトゲノム
解析センター設置

1992

平成4年

創立100周年

1998

平成10年

ヒト疾患モデル研究センター
(現システム疾患モデル
研究センター) 設置

1995

平成7年

4号館新築



2006

平成18年

アジア感染症研究拠点設置、
中国に海外拠点(北京、ハルビン) 開設
疾患プロテオミクスラボラトリー設置

2008

平成20年

幹細胞治療研究センター設置

2009

平成21年

文部科学省共同利用・
共同研究拠点に認定

2005

平成17年

感染症国際研究センター
設置

2004

平成16年

東京大学が
国立大学法人東京大学となる

2003

平成15年

総合研究棟・
病院棟新築



2017

平成29年

創立125周年・
改組50周年



2018

平成30年

文部科学省国際
共同利用・共同
研究拠点に認定

2020

令和2年

ヘルスインテリ
ジェンスセンター
をヒトゲノム解析
センターに統合

2015

平成27年

ヘルスインテリジェンス
センター設置
東京大学
ニューヨークオフィス
開設

2014

平成26年

遺伝子・
細胞治療センター設置

2011

平成23年

国際粘膜ワクチン開発
研究センター設置

歴代病院長

- | | | | | | | | |
|----------------------------------|----------------------------------|----------------------------------|----------------------------------|----------------------------------|----------------------------------|----------------------------------|---------------------------------|
| ● 初代
■ 高木 友枝
(1895-1896) | ● 第2代
■ 守屋 伍造
(1899-1901) | ● 第3代
■ 柴山五郎作
(1901-1914) | ● 第4代
■ 二木 謙三
(1914-1920) | ● 第5代
■ 宮川 米次
(1920-1945) | ● 事務取扱
■ 田宮 猛雄
(1945-1946) | ● 第6代
■ 美甘 義夫
(1946-1951) | ● 第7代
■ 北本 治
(1951-1969) |
| ● 第8代
■ 石橋 幸雄
(1969-1971) | ● 第9代
■ 稲生 綱政
(1971-1974) | ● 第10代
■ 真下 啓明
(1974-1977) | ● 第11代
■ 大谷 杉士
(1977-1981) | ● 第12代
■ 藤井源七郎
(1981-1985) | ● 第13代
■ 三輪 史郎
(1985-1987) | ● 第14代
■ 秋山 暢夫
(1987-1991) | ● 第15代
■ 島田 馨
(1991-1994) |
| ● 第16代
■ 浅野 茂隆
(1994-2003) | ● 第17代
■ 岩本 愛吉
(2003-2006) | ● 第18代
■ 山下 直秀
(2006-2010) | ● 第19代
■ 今井 浩三
(2010-2014) | ● 第20代
■ 小澤 敬也
(2014-2018) | ● 第21代
■ 東條 有伸
(2018-) | | |

感染・免疫部門

Department of Microbiology and Immunology

部門長 三宅 健介

●ウイルス感染分野

教授 獣医学博士 河岡 義裕
客員教授 博士（獣医学） 野田 岳志
客員教授 博士（獣医学） 渡邊登喜子
准教授 博士（獣医学） 今井 正樹
特任准教授（兼務） 博士（医学） 山吉 誠也

●感染遺伝学分野

教授 医学博士 三宅 健介
准教授 博士（医学） 齋藤伸一郎

●ウイルス病態制御分野

教授 博士（獣医学） 川口 寧
客員准教授 博士（獣医学） 有井 潤

●ワクチン科学分野

教授 博士（医学） 石井 健
准教授 博士（医学） 小椋山康司
特任講師 博士（医学） 根岸 英雄

●マラリア免疫学分野

教授 医学博士 Cevayir Coban

近年の新興・再興感染症の出現により感染免疫研究の重要性が再認識されている。本研究部門は、「ウイルス感染」「感染遺伝学」「ウイルス病態制御」「ワクチン科学」「マラリア免疫学」の5分野から構成されており、インフルエンザウイルス、エボラウイルス、ヘルペスウイルス、マラリアによる感染の分子基盤、感染症の病態、感染防御機構を分子レベル、細胞レベル、個体レベルで解明し、ワクチン開発などを通して、感染症や自己免疫疾患の制御ならびに予防に応用することを目指している。現在、これらの研究グループでは病原体と宿主の一方にのみ片寄ることなく、それぞれの側からの解析を包含した幅広い研究を展開している。また本研究部門では、国内外の大学および国公立研究機関と積極的な共同研究を行ない多くの学術的成果をあげてきた。さらに、それらの知見を感染症や免疫病の予防や治療へ応用するための新技術あるいは創薬の開発を目指して、医科研・附属病院、感染症国際研究センター、国際粘膜ワクチン開発研究センターはもとより、医薬品関連企業等との共同研究も積極的に推進している。本部門の重要な使命の一つとして、我が国の感染・免疫学の中核として研究交流活動を推進するとともに、次世代の優秀な研究・教育者を育成することも目指している。

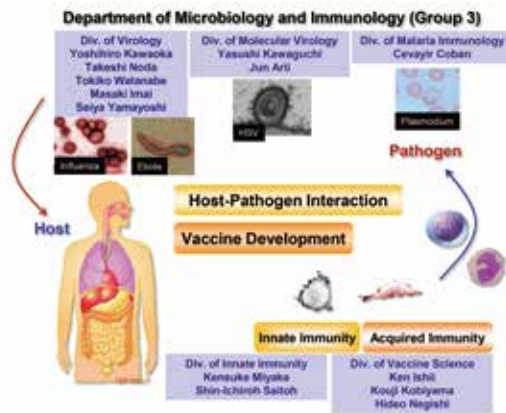


図. 感染免疫部門の構成を示す。病原体と宿主の関係を主に病原体側から解析する分野と宿主側から解析する分野からなる。分野として、病原体と宿主の関係を解明するとともに、ワクチン開発など、感染症および関連疾患の新規治療法の開発を目指す。

癌・細胞増殖部門

Department of Cancer Biology

部門長 村上 善則

●人癌病因遺伝子分野

教授 医学博士 村上 善則
特任教授 医学博士 森崎 隆幸
客員教授 博士（理学） 越川 直彦
客員准教授 博士（医学） 松原 大祐

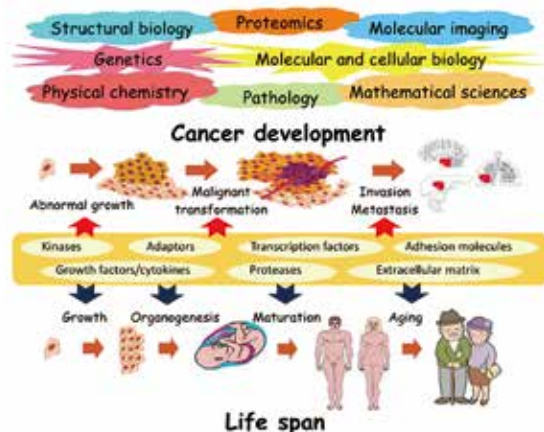
●腫瘍抑制分野

教授 理学博士 山梨 裕司

●癌防御シグナル分野

教授 医学博士 中西 真
准教授 博士（理学） 西山 敦哉

癌・細胞増殖部門では、細胞の増殖、分化、細胞死、運動、接着やその他の機能発現を制御する細胞内外のシグナル伝達機構を解析し、細胞の癌化や浸潤、転移における病的な変化の解明を通じて、微小環境とのやりとりを含めた癌の本質を探索している。そのために、従来の分子細胞生物学的な解析や病理学的な解析、さらにはマウス遺伝学的解析に加えて、プロテオミクス、分子イメージング、構造生物学、物理化学、数理科学などの学際的手法を積極的に取り込み、その成果を基盤とするトランスレーショナルリサーチの推進を目指している。当該部門の各分野においては、以下の研究が進められている。1) 人癌病因遺伝子分野：細胞接着異常による癌進展、薬剤耐性機構の解明と診断・治療への応用及び肺癌、乳癌、胆道癌、ATLなどの分子病理学的研究、ゲノム、エピゲノム解析、2) 腫瘍抑制分野：多様な細胞機能を制御するシグナル伝達機構と癌や神経筋疾患などの難治性疾患におけるその破綻に関する研究、並びに疾患モデル動物の病態生理学的な解析と治療技術開発、3) 癌防御シグナル分野：個体における発がん防御、および老化制御機構の解明と、これらを標的とした革新的ながん治療法・予防法、抗加齢療法の開発、並びにエピゲノム異常の発がん初期過程における役割の解明。なお、これらの研究活動に加え、部門主催のセミナーを積極的に開催することで様々な研究交流を促進し、また、大学院生、若手研究者による英語研究発表会の継続的な開催を通じて若手の育成を推進している。



基礎医科学部門

Department of Basic Medical Sciences

部門長 武川 睦寛

●神経ネットワーク分野

教授 医学博士 真鍋 俊也

●分子シグナル制御分野

教授 博士（医学） 武川 睦寛

基礎医科学部門は、医科学の発展に貢献するため、他研究部門との連携をはかりつつ、研究領域を越えた自由かつオリジナルな基礎生命科学的研究を展開している。現在、神経ネットワーク分野、分子シグナル制御分野の2分野より構成されている。具体的な研究テーマとしては以下が挙げられる。(1) 神経ネットワーク分野では、中枢神経系のシナプスに局在する神経伝達物質受容体、イオンチャネル、シグナル伝達分子、細胞接着分子、神経伝達物質放出関連分子などに焦点を当て、生化学・分子生物学、電気生理学や行動学などの手法を用いて、分子レベルから細胞・ネットワークレベル、および、個体レベルでの学際的研究を進め、情動や記憶・学習などの高次脳機能の分子機構や精神神経疾患の基盤機構の解明をめざしている。(2) 分子シグナル制御分野では、がんや自己免疫疾患、神経変性疾患などの病因・病態に関する細胞内シグナル伝達ネットワーク、特に「MAPキナーゼ・カスケード」や「ストレス顆粒」の制御機構と生理機能を分子レベル・個体レベルで解明すると共に、その破綻がもたらす疾患発症機構の解析を進めている。また、基礎研究で得られた知見を活用してシグナル伝達分子をターゲットとした分子標的治療薬や分子診断薬を開発し、疾患の克服に役立てることを目標に研究を推進している。



図1. マウスの脳より作製した海馬スライス標本

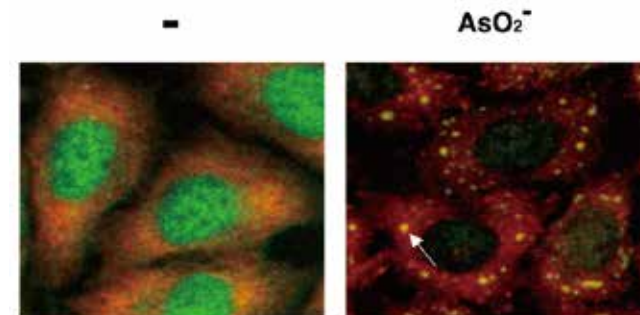


図2. ヒ素刺激による細胞質内ストレス顆粒形成の誘導



ヒトゲノム解析センター *Human Genome Center*

センター長 山梨 裕司

●ゲノムデータベース分野 教授(兼務) 博士(理学) 中井 謙太	●シークエンスデータ情報処理分野 教授(兼務) 博士(数理学) 井元 清哉	●医療データ情報学分野 教授 博士(理学) 渋谷 哲朗
●ゲノム医科学分野 教授 医学博士 柴田 龍弘 講師 博士(理学) 新井田厚司	●機能解析イン・シリコ分野 教授 博士(理学) 中井 謙太 准教授 博士(工学) 朴 聖俊	●健康医療インテリジェンス分野 教授 博士(数理学) 井元 清哉 特任准教授 博士(情報理工学) 張 耀中
●シークエンス技術開発分野 教授(兼務) 医学博士 柴田 龍弘 教授(兼務) 医学博士 村上 善則	●公共政策研究分野 教授 博士(保健学) 武藤 香織 准教授 博士(社会健康医学) 井上 悠輔	●メタゲノム医学分野 特任教授 博士(医学) 植松 智

ゲノム医療の社会実装が始まるなかで、ゲノム情報と医療情報に基づいた個別化ゲノム医療を推進し、疾病の診断、予防、治療法の開発などを通し人間社会に大きく貢献することを目的とする。このために、医学・生命科学研究に最適化したスーパーコンピュータや人工知能技術を活用し、次の事業を行っている。

①個別化ゲノム医療のための新次元ゲノム研究の推進

超高速シークエンサー技術等を駆使して、個人個人のゲノム情報・エピゲノム・トランスクリプトーム・プロテオーム・メタボローム・マイクロバイオームなどの違いと、がんや成人病等の病気、薬、環境因子との繋がりを解明し、それを診断、予防、治療へと翻訳する新次元ゲノム研究を実施する。特に、全ゲノムシークエンスに基づく臨床シークエンス研究とその実装を展開する。

②個別化ゲノム医療のためのメディカルインフォマティクスとAIの研究

ゲノムや健康医療関連データを整理・解析・解釈し、個別化医療に価値ある情報へと翻訳するメディカルインフォマティクスの研究を展開する。スパコンと人工知能を活用し、ヒト大規模ゲノム関連データベース、副作用情報データベース等を統合したビッグデータ解析技術を開発し、個別化ゲノム医療を加速するソフトウェア等の情報基盤技術を整備する。

③倫理的・法的・社会的問題の研究による公共政策研究

生命科学・医学研究を進めるに当たっての社会との接点で生じる様々な問題を研究する。個別化ゲノム医療や先端医療の推進には、市民の理解、個人ゲノム等の利活用に関する社会的合意形成が不可欠である。そこで、実証・比較政策研究により、個人遺伝情報の誤用や悪用の防止、病名告知や医療者と患者の意思決定過程の共有、自身のゲノムや診療情報へのアクセス権、適切な価格のヘルスケア等に関する研究・政策提言を行う。



Shirokane4&5
(1.9PFLOPS)



Lustre File System (18PB)



Archive Disk (~100PB)

Human Genome Center
Supercomputer System
SHIROKANE

システム疾患モデル研究センター *Center for Experimental Medicine and Systems Biology*

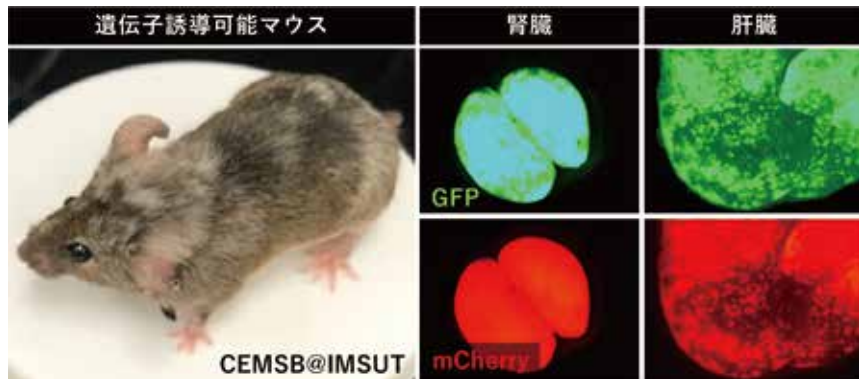
センター長 山田 泰広

●先進病態モデル研究分野 教授 博士(医学) 山田 泰広	●生殖システム研究分野 特任教授 博士(薬学) 伊川 正人 准教授 博士(農学) 小沢 学	●ゲノム編集研究分野 教授(兼務) 博士(人間・環境学) 真下 知士 講師(兼務) 博士(医科学) 吉見 一人
●自然免疫研究分野 教授(兼務) 医学博士 三宅 健介	●遺伝子操作動物研究分野 教授(委嘱) 博士(理学) 荒木 喜美	

システム疾患モデル研究センターは、現代の医科学研究に欠かせないヒト疾患モデルを開発し、病気の本体解明を目指すとともに、前臨床試験を可能とするモデル動物作製を介して新しい疾患治療法確立に貢献することを目的としている。

ヒトや様々なモデル動物において遺伝子配列の全容が解明されたものの、個体レベルでの詳細な遺伝子機能やその発現調節を担うエピジェネティクス制御機構、ヒトDNAの大部分を占める非翻訳領域の機能、さらにはそれらの疾患との関連性など、医学・生物学的見地から解明すべき点が多く存在する。近年の遺伝子工学、発生工学技術の進展により、実験動物へのヒト遺伝子の導入や疾患に関連した変異の導入のみならず、遺伝子の過剰発現や不活性化を自在にコントロールすることが可能となった。またCRISPR/Casシステムを用いたゲノム編集技術を応用することで、より効率的に複雑な遺伝子改変動物の作製が可能となりつつある。本研究センターでは、先進モデル動物作製コアを中心として、発生工学やゲノム編集における先端技術を応用することで独創的で先進的な遺伝子改変動物を開発し、医科研内外の研究室への研究支援業務を行っている。

遺伝子工学と発生工学を駆使した先進的遺伝子改変動物の作製およびその個体レベルでの解析により、医科学研究所におけるゲノム医科学、幹細胞生物学、がん研究、免疫学、感染症研究など、多彩な研究領域を繋ぐ拠点として機能している。



薬剤により外来遺伝子誘導が可能なキメラマウス

先端医療研究センター *Advanced Clinical Research Center*

センター長 北村 俊雄

●分子療法分野 教授 医学博士 東條 有伸 准教授 博士(医学) 高橋 聡 客員准教授 博士(医学) 谷口 博昭	●臨床ゲノム腫瘍学分野 教授 博士(医学) 古川 洋一 准教授 博士(医学) 池上 恒雄 講師 博士(薬学) 山口貴世志	●先端医療開発推進分野 教授 博士(医学) 長村 文孝 准教授 博士(医学) 野島 正寛
●細胞療法分野 教授 医学博士 北村 俊雄	●先端がん治療分野 教授 博士(医学) 藤堂 具紀 特任准教授 博士(医学) 田中 実	●先端ゲノム医学分野 准教授 博士(医学) 平田 喜裕 講師(兼務) 博士(医学) 松原 康朗
●感染症分野 教授 博士(医学) 四柳 宏 准教授 博士(医学) 堤 武也		●生命倫理研究分野 准教授 博士(法学) 神里 彩子

本センターは、附属病院における診療への橋渡しの役割を果たす臨床系の研究分野の集合体である。その使命は、白血病を含む悪性腫瘍、感染症、免疫疾患など各疾患領域の問題点を解明して次世代の治療法に結実させる、ベッドとベンチを双方向に結んだ臨床医科学と橋渡し研究 (TR) の実践である。そのため各研究分野は相互に連携するだけでなく、所内の他の部門・センターや所外の研究者と幅広く密接な連携を取っている。本センターは、造血管腫瘍を主な研究対象とする分子療法分野・細胞療法分野、ウイルス肝炎やHIV感染症を中心とする感染症の専門家からなる感染症分野、消化器がんを研究領域とする臨床ゲノム腫瘍学分野、脳腫瘍外科領域のTRを実施する先端がん医療分野とTRを支援するレギュラトリーサイエンス担当の先端医療開発推進分野、先端医療系の人材教育に関わる先端ゲノム医学分野に加え、生命科学の研究倫理を扱う生命倫理研究分野の8分野から構成される。スタッフの多くが医師であり、研究所病院の診療業務を支援しつつ研究を行うphysician scientistの集団である。



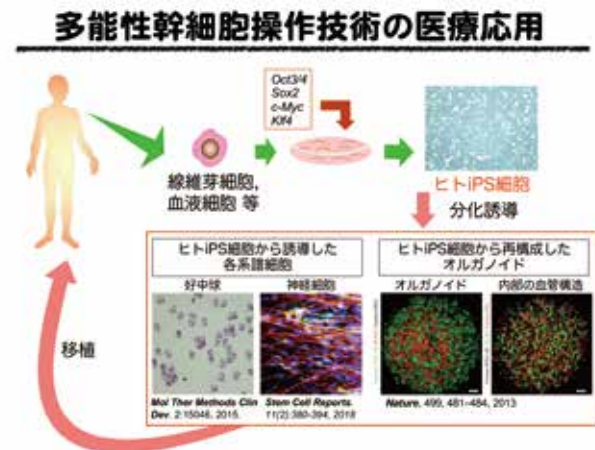
医科学研究所における先端医療研究センターの位置づけ

幹細胞治療研究センター *Center for Stem Cell Biology and Regenerative Medicine*

センター長 谷口 英樹

●再生医学分野 教授 博士(医学) 谷口 英樹 特任准教授 博士(医学) 山口 智之	●幹細胞シグナル制御分野 教授(兼務) 医学博士 北村 俊雄	●幹細胞生物学分野 特任准教授 博士(生命科学) 山崎 聡
●幹細胞分子医学分野 教授 博士(医学) 岩間 厚志	●幹細胞プロセッシング分野 教授(兼務) 博士(医学) 谷口 英樹	●FACSコアラボラトリー 教授(兼務) 博士(医学) 岩間 厚志
●幹細胞移植分野 教授(兼務) 医学博士 東條 有伸 准教授(兼務) 博士(医学) 高橋 聡	●幹細胞病理学分野 教授(兼務) 博士(医学) 山田 泰広	●ステムセルバンク 教授(兼務) 博士(医学) 谷口 英樹

幹細胞研究は、人工臓器や移植に代わる21世紀の医療として、あるいは癌・疾患研究の新しいアプローチとして注目されている。本センターは再生医学分野、幹細胞分子医学分野、幹細胞移植分野、幹細胞シグナル制御分野、幹細胞プロセッシング分野、幹細胞病理学分野、幹細胞生物学分野の7分野よりなり、幹細胞治療研究を通して、再生医療・癌・疾患研究を展開している。学内にある知的・人的資源を集約し、先導的な知識・技術を有機的に結びつけ、基礎から臨床まで一貫した研究体制を構築することによって我が国における再生医療実現と疾患iPS細胞などの幹細胞解析技術を駆使した癌・疾患研究を目指す。支援組織としてFACSコアラボラトリー、ステムセルバンクがあり、iPS細胞作製も共同研究として受託している。



感染症国際研究センター

International Research Center for Infectious Diseases

センター長 河岡 義裕

●高病原性感染症系
教授(兼務) 獣医学博士 河岡 義裕

●感染制御系
教授(兼務) 博士(獣医学) 川口 寧
(ウイルス学分野)
准教授 博士(工学) 一戸 猛志
(システムウイルス学分野)
准教授 博士(医学) 佐藤 佳

●病原微生物資源室
教授(兼務) 博士(獣医学) 川口 寧

A (H1N1) pdm09亜型のインフルエンザウイルスやSARS-CoV-2などの新興ウイルスの流行は、海外で発生した新興感染症が日本に住む私達にとっても大きな脅威となりうることを認識させた。新興感染症を制御するためには、病原体の分離・同定をはじめ、診断・予防・治療法の開発が必要である。そのためには、原因となる病原体の性状を知り、その対策をするためにも基礎的研究は必須である。このような新規感染症に対して、大学の研究機関が積極的に基礎研究を行い、新興・再興感染症発生時に迅速に対応できるよう基礎的知識を備蓄・供給していかなければならない。このような背景を踏まえ、平成17年に東京大学医科学研究所と大阪大学微生物病研究所に共同で、感染症国際研究センターが設置された。両研究所が有機的な共同研究体制を組むことにより、新興・再興感染症に対する先端的な医学・生物学研究と感染症研究者育成の拠点となることを目指している。本センターは、2つの研究部門と「病原微生物資源室」から構成されている。



図. SARS-CoV-2の電子顕微鏡像、今井正樹准教授、氏江美智子博士課程4年撮影

国際粘膜ワクチン開発研究センター

International Research and Development Center for Mucosal Vaccines

センター長 石井 健

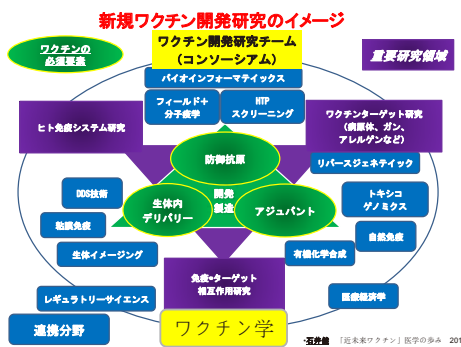
●粘膜バリア学分野
教授(兼務) 医学博士 チョパン ジェヴァイア
客員教授 博士(薬学) 長谷 耕二
特任准教授 博士(農学) 根岸(古賀) 貴子

●臨床ワクチン学分野
特任教授 博士(歯学) 藤橋浩太郎
特任准教授 博士(医学) 倉島 洋介

●自然免疫制御分野
特任教授(兼務) 博士(医学) 植松 智

●粘膜ワクチン学分野
教授(兼務) 博士(医学) 石井 健
客員教授 博士(薬学) 國澤 純
客員准教授 博士(農学) 野地 智法
特任講師 博士(医学) 中橋 理佳

結核、AIDS、マラリア、薬剤耐性病原体 (AMR)、エボラ出血熱やMERSに代表される新興・再興感染症は未だ世界の脅威であり、これらの感染症を予防できるワクチンの開発は日本のみならず世界において喫緊の課題である。同様に、アレルギー疾患やがん、糖尿病、動脈硬化、神経変性疾患なども世界的に深刻な問題となっている。国際粘膜ワクチン研究開発センターでは医科学研究所が強みとする感染症研究、すなわち分子生物学、微生物学、免疫学、ゲノム科学、臨床研究を基盤とし、ワクチン開発研究に関する基礎から臨床開発までシームレスな研究活動を推進することで、次世代を担う研究者育成の拠点形成を進める。現在、産官学が一体となった共同プロジェクトにより、経口や経鼻を介した粘膜ワクチンなど、多くの革新的な次世代ワクチンの臨床開発研究・治験を進めている。



遺伝子・細胞治療センター

Center for Gene & Cell Therapy

センター長 岡田 尚巳

●分子遺伝医学分野
教授 博士(医学) 岡田 尚巳

●遺伝子・細胞治療センター
教授(兼務) 医学博士 東條 有伸
教授(兼務) 博士(医学) 藤堂 具紀
教授(兼務) 医学博士 北村 俊雄
教授(兼務) 博士(医学) 長村 文孝
教授(委嘱) 博士(医学) 玉田 耕治

特任教授(兼務) 医学博士 田原 秀晃
客員教授 博士(医学) 村松 慎一
准教授(兼務) 博士(医学) 高橋 聡
准教授(兼務) 博士(医学) 長村登紀子
特任准教授(兼務) 博士(医学) 内田 宏昭

医科研附属病院は、我が国の遺伝子治療や造血幹細胞移植をリードしてきた実績があり、この方向の臨床開発をさらに強化するため、平成26年度に遺伝子・細胞治療センター(CGCT)を設置した。難治性のがんや慢性疾患を対象とした遺伝子治療/細胞治療の開発に取り組んでいる。特に、腫瘍溶解性ウイルス療法、遺伝子操作Tリンパ球療法、神経筋疾患や血友病に対するAAVベクターを用いた遺伝子治療、移植後ウイルス感染症に対するTリンパ球療法、間葉系細胞を用いた細胞治療などの開発研究を行っている。



実験動物研究施設

Laboratory Animal Research Center

施設長 真下 知士

●先進動物ゲノム研究分野
教授 博士(人間・環境学) 真下 知士
講師 博士(医科学) 吉見 一人

●動物センター
教授(兼務) 博士(人間・環境学) 真下 知士

医科学研究所の実験動物研究施設は、昭和40年に設立した国内で最も歴史のある施設である。通常のマウス・ラット飼育実験室の他、P2A、P3Aの感染実験室も設置している。実験動物の飼育環境を整備し、研究者が適切な動物実験を実施できる環境を提供している。最新の生殖工学技術を利用したSPF化や胚保存、動物作製支援も行っている。

また、実験動物学の更なる発展を目指した研究も行っている。特に、ライフサイエンス・メディカルサイエンスに'革命'をもたらしたゲノム編集技術の新規開発(CRISPR-Cas3など)、またそれらを細胞や受精卵に利用した新しい遺伝子改変技術の開発や新しいモデル動物の開発を行っている。ヒト遺伝子を保有する'ヒト化動物(ゲノム)'の開発や、ヒト細胞やヒトiPS細胞を免疫不全動物に移植して生着させた'ヒト化動物(臓器)'の開発も行っている。



写真: 動物センター外観



奄美病害動物研究施設

Aomami Laboratory of Injurious Animals

施設長 真下 知士

教授(兼務) 博士(人間・環境学) 真下 知士

当施設は、奄美大島で120年余りの歴史を誇り、東京大学の有する日本最南端の施設である。日本のフィラリア症根絶の基礎となった研究や、毒蛇ハブの咬傷治療血清に関する研究は、特筆すべき成果である。平成17年度からは、国際感染症研究センターの霊長類実験拠点としてBSL-2、BSL-3病原体の取扱いが可能な実験環境が整備され、霊長類での感染実験が可能な共同利用研究拠点となった。現在は、奄美の気候に適応した新世界ザルのコロニーを維持し、国内外の様々な研究機関とともに、ウイルス、細菌、原虫など多種多様な病原体での霊長類感染実験を実施している。



図1. (a) 奄美病害動物研究施設 正門、(b) 霊長類用飼育・実験室 (ABSL3)

遺伝子解析施設

Laboratory of Molecular Genetics

施設長 山梨 裕司

(フロンティア研究領域)
准教授 博士(薬学) 館林 和夫 准教授 博士(農学) 米田美佐子

フロンティア研究領域では、所属する教員の自由な発想に基づく最先端の医科学研究が推進されている。

疾患プロテオミクスラボラトリー *Medical Proteomics Laboratory*

施設長 山梨 裕司

教授（兼務） 博士（工学） 津本 浩平
特任教授 田中 耕一
准教授 博士（医学） 尾山 大明

タンパク質は複雑な生命現象の重要な担い手であり、がん、感染症等の病態の多くはタンパク質の機能異常が直接の原因となっている。当ラボラトリーでは、最先端の抗体工学、化合物スクリーニング、質量分析、電子顕微鏡技術を駆使し、疾患関連タンパク質が織り成す相互作用ネットワークに関して分子レベルでの物理化学・構造生物学的解析から細胞レベルでの情報科学・システム生物学的解析に至るまで、統合的なプロテオーム研究を推進している。また、これらの先端解析技術を研究所内外の研究者に提供し、疾患プロテオミクス研究支援を幅広く展開している。

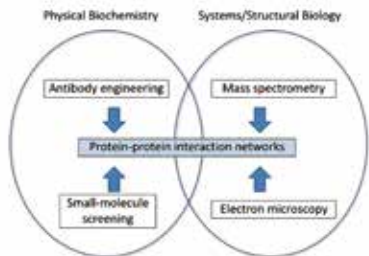


図1. 疾患プロテオミクス研究におけるタンパク質相互作用ネットワーク解析

アジア感染症研究拠点 *Research Center for Asian Infectious Diseases*

拠点長 川口 寧

教授（兼務） 博士（獣医学） 川口 寧 特任准教授 博士（医学） 山吉 誠也
教授（兼務） 獣医学博士 河岡 義裕 特任准教授 博士（薬学） 合田 仁
特任教授 法学博士 林 光江 特任講師 博士（医学） 山本 瑞生

アジア感染症研究拠点は、中国拠点と医科研内関連グループの総称で、中国科学院微生物研究所（北京）、中国農業科学院ハルビン獣医研究所（ハルビン）と連携している。2015年からは日本医療研究開発機構（AMED）のサポートを受け、薬剤耐性菌の研究を行う国立感染症研究所の研究グループがプロジェクトに加わった。北京拠点ではHIVの潜伏感染機構の解明、ならびに医科研内拠点と共同で新型コロナウイルス、デングウイルス、HIV-1を対象とした膜融合機構の研究を行っており、膜融合阻害剤開発の基盤研究を実施している。ハルビン副拠点ではインフルエンザウイルスの研究（病原性、分子進化、診断キットの開発）を医科研と連携して進めている。

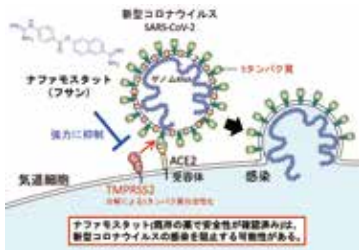


図. 新型コロナウイルス（SARS-CoV-2）と標的細胞の膜融合を阻害する薬剤として肺炎治療薬ナファモスタットを発見した。ナファモスタットはウイルスの膜融合に必要なプロテアーゼTMPRSS2を阻害することでウイルスの侵入を阻止する。

東京大学特任教授部門 *IMSUT Distinguished Professor Units*

●幹細胞治療部門
東京大学特任教授 医学博士 中内 啓光

●粘膜免疫学部門
東京大学特任教授 医学博士 清野 宏
特任准教授（兼務） 博士（医学） 倉島 洋介
特任講師（兼務） 博士（医学） 中橋 理佳

幹細胞治療部門

「基礎科学と臨床医学の掛け橋として新しい医療を確立する！」

当研究室では、免疫学、分子生物学、細胞生物学、発生工学など、基礎科学の知識や方法論を臨床医学と結びつけることにより、新しい病気の発見、病態の解明、治療法の開発など、先端医療の確立に貢献することを最終的な目標としている。

また米国スタンフォード大学やケンブリッジ大学幹細胞研究所などと国際的な共同研究も活発に行っている。

粘膜免疫学部門

粘膜免疫システムは、病原性微生物やアレルゲンなどの有害な外来抗原を感知するだけでなく、宿主に有益な食物由来タンパク質や共生微生物などに過剰に反応しない寛容を成立させている。この非常に高度に制御され緻密且つ柔軟性に富んだ最前線の生体監視・防御システム（図2）を解明し、農学・工学・植物学などの異分野融合による革新的技術を用いて、様々な免疫疾患や感染症に対する予防・治療法の確立を目指す基盤構築が当部門の研究・開発ミッションである。

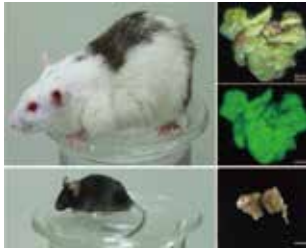


図1. 異種間胚盤胞補完法でラット体内に作製したマウス脾臓（図上）。下はIPS細胞ドナーであるマウスとその脾臓。

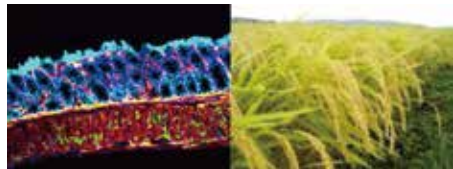


図2. 粘膜免疫システムのユニーク性の解明と、それを応用した粘膜ワクチン開発（例：コメ型経口ワクチンMucoRice）

附属病院

IMSUT Hospital

●病院長 医学博士 東條 有伸

●副病院長 博士（医学） 四柳 宏
博士（医学） 藤堂 具紀

●血液腫瘍内科 教授（兼務） 医学博士 東條 有伸
准教授（兼務） 博士（医学） 高橋 聡
准教授 博士（医学） 今井 陽一
准教授（兼務） 博士（医学） 長村登紀子
特任准教授（兼務） 博士（医学） 安井 寛

●感染免疫内科 教授（兼務） 博士（医学） 四柳 宏
准教授（兼務） 博士（医学） 堤 武也

●アレルギー免疫科 教授（兼務） 医学博士 田中 廣壽
特任准教授（兼務） 博士（医学） 山本 元久
講師 博士（医学） 吉川 賢忠

●総合診療科 教授（兼務） 博士（医学） 四柳 宏
特任教授（兼務） 医学博士 森崎 隆幸
客員教授 博士（歯学） 各務 秀明
准教授（兼務） 博士（医学） 平田 喜裕
准教授（兼務） 博士（医学） 堤 武也
講師 博士（医学） 松原 康朗

●ゲノム診療科 教授（兼務） 博士（医学） 古川 洋一
准教授（兼務） 博士（医学） 池上 恒雄

●放射線科 准教授（兼務） 博士（医学） 國松 聡
講師 博士（医学） 赤井 宏行

●緩和医療科 教授（兼務） 医学博士 東條 有伸
客員教授 医学博士 鎮西美米子
特任講師 博士（医学） 土方 康基

●病理診断科 特任准教授 博士（医学） 大田 泰徳

●外科 教授（兼務） 医学博士 東條 有伸
特任教授（兼務） 医学博士 田原 秀晃
准教授 博士（医学） 篠崎 大
講師 博士（医学） 釣田義一郎
病院講師 博士（医学） 谷澤健太郎

●麻酔科 准教授 博士（医学） 折井 亮

●関節外科 講師 博士（医学） 竹谷 英之

●脳腫瘍外科 教授（兼務） 博士（医学） 藤堂 具紀
特任准教授（兼務） 博士（医学） 田中 実

●泌尿器科 教授（兼務） 博士（医学） 久米 春喜
特任講師 博士（医学） 高橋 さゆり

●医療情報部 准教授（兼務） 博士（医学） 國松 聡
講師（兼務） 博士（医学） 赤井 宏行

●放射線部 准教授 博士（医学） 國松 聡

●セキプロセッシング・輸血部 病院教授 博士（医学） 長村登紀子

●手術部 教授（兼務） 博士（医学） 藤堂 具紀
特任准教授（兼務） 博士（医学） 田中 実

●中央材料部 教授（兼務） 博士（医学） 藤堂 具紀
特任准教授（兼務） 博士（医学） 田中 実

●検査部 病院教授（兼務） 博士（医学） 長村登紀子

●病理部 教授（兼務） 医学博士 東條 有伸
特任准教授（兼務） 博士（医学） 大田 泰徳

●ゲノム診療部 教授（兼務） 博士（医学） 古川 洋一

●栄養管理部 講師（兼務） 博士（医学） 松原 康朗

●放射線管理室 准教授（兼務） 博士（医学） 國松 聡

●地域医療連携室 教授（兼務） 博士（医学） 四柳 宏

●医療安全・感染制御センター 教授（兼務） 博士（医学） 四柳 宏

医療安全管理部 准教授（兼務） 博士（医学） 今井 陽一
准教授（兼務） 博士（法学） 神里 彩子

感染制御部 教授（兼務） 博士（医学） 四柳 宏

●トランスレーショナルリサーチ・治験センター 教授（兼務） 博士（医学） 長村 文孝
准教授（兼務） 博士（医学） 野島 正寛
特任准教授（兼務） 博士（医学） 安井 寛

●抗体・ワクチンセンター 教授 医学博士 田中 廣壽
教授（兼務） 博士（工学） 津本 浩平
特任教授 博士（医学） 醍醐弥太郎
特任准教授（兼務） 博士（生命科学） 長門石 暁
特任准教授 博士（医学） 山本 元久
講師（兼務） 博士（医学） 吉川 賢忠
特任講師 博士（医学） 高野 淳

●治療ベクター開発センター 教授（兼務） 博士（医学） 藤堂 具紀
特任准教授（兼務） 博士（医学） 田中 実

●臍帯血・臍帯バンク 病院教授（兼務） 博士（医学） 長村登紀子

●看護部 看護部長 吉井 栄子

●薬剤部 薬剤部長 黒田誠一郎

●エイズワクチン開発担当 教授（委嘱） 博士（医学） 俣野 哲朗
客員准教授 博士（医学） 立川 愛



寄付研究部門・社会連携研究部門

Corporate Sponsored Research Programs/
Social Cooperation Research Programs

●再生基礎医科学国際研究拠点寄付研究部門
特任教授 博士（医学） 渡邊すみ子

●RNA医科学社会連携研究部門
特任准教授 博士（理学） 高橋 理貴

●国際先端医療社会連携研究部門
特任准教授 博士（医学） 湯地晃一郎

●先端ゲノム医療の基盤研究寄付研究部門
特任准教授 博士（医学） 安井 寛

●先進的バイオ医薬品学社会連携研究部門
特任准教授 博士（生命科学） 長門石 暁

●がん生体分子治療社会連携研究部門
特任教授 医学博士 田原 秀晃
特任准教授 博士（医学） 内田 宏昭

●ゲノム予防医学社会連携研究部門
教授（兼務） 医学博士 村上 善則
特任教授（兼務） 医学博士 森崎 隆幸

医科学研究所においては、基幹3部門と附置センター等に加えて、教育研究の進展及び充実を目的として、寄付金により基礎的経費を賄う寄付研究部門が設置されている。また、公益性の高い共通課題について、共同研究を実施する民間機関等からの経費を活用して教育研究を行う社会連携研究部門が設置されている。寄付研究部門、社会連携研究部門ともに、医科学研究所の専任教員が配置され、研究の多面的展開に貢献している。

共通施設等

Common Research Facilities

●培地室
室長（兼務） 山梨 裕司

●図書室
室長（兼務） 中西 真

●放射線管理室
室長（兼務） 三宅 健介

●ITサービス室
室長（兼務） 中西 真

●写真室
室長（兼務） 中西 真

●遺伝子組換え・微生物研究支援室
室長（兼務） 川口 寧

●研究倫理支援室
室長（兼務） 武藤 香織
准教授（兼務） 神里 彩子

●安全衛生管理室
室長（兼務） 齋藤伸一郎

●知的財産室
室長（兼務） 武川 睦寛

●利益相反アドバイザー室
室長（兼務） 古川 洋一

●病理コアラボラトリー
Ⅰ室 室長（兼務） 村上 善則
Ⅱ室 室長（兼務） 大田 泰徳

●発生工学研究支援室
教授（兼務） 山田 泰広

●顕微鏡コアラボラトリー
室長（兼務） 武川 睦寛

●IMSUT臨床フローサイトメトリー・ラボ
管理者（兼務） 東條 有伸



IMSUT臨床フローサイトメトリー・ラボ



顕微鏡コアラボラトリー



図書室

技術室

Technical Office

室長 長村 文孝

所長オフィス

Dean's Office

●所長アドバイザー室
客員教授 竹中 登一

●プロジェクトコーディネーター室
室長（兼務） 中西 真

●学術研究基盤支援室
室長 井上純一郎

●国際学術連携室
室長（兼務） 中西 真

●バイオバンク・ジャパン
施設長（兼務） 山梨 裕司

教育活動

Education Activities

東京大学医科学研究所は、大学院制度を中心にした研究者の養成機関としても大きな実績をもち、医科学分野の研究者を目指す若い人々に理想的な教育環境を提供している。各研究分野の教員は医学系、理学系、農学生命科学、薬学系、工学系、情報理工学系、新領域創成科学、学際情報学府のいずれかの大学院研究科の協力教員として、大学院生を受け入れている。特に「学融合」を追求して東京大学大学院に新設された新領域創成科学研究科のうち、メディカル情報生命専攻は、医科学研究所が協力することにより平成27年度に発足したものである。同専攻のうち3基幹講座は白金台キャンパスにも研究室を持ち、医科学研究所との強い連携のもとで領域横断的な教育研究を展開している。医科学研究所の教育活動の特徴は、研究者を目指す大学院生を主な対象としていること、教員が研究室での個々の研究指導を通じて若手の育成に専念できることにある。また、学生も教員も、多様な学問的背景と興味を持つ人々が、研究室の垣根を越えて盛んに交流していることも、大きな特色であろう。これらの人的条件と、優れた研究環境とを活かして以下に述べるような特色ある教育制度も機能している。

医科学研究所独自の教育コースとして制度化されているものとしては、大学院セミナー、非医師大学院生に対する医科学研究所附

属病院での病院見学実習などがある。大学院セミナーは、大学院生を対象とした毎週のセミナーシリーズであり、年ごとにテーマを設定して全国から第一線の研究者を招待して開催される。履修は大学院医学系研究科の単位として認められている。非医師大学院生に対する病院見学実習は、附属病院の施設を利用した実習で、特に倫理面における配慮などの授業と、トランスレーショナルリサーチに関する実習を強化している。

情報科学についても、医科学研究所は恵まれた教育環境を有している。ヒトゲノム解析センターには、コンピューター専門家が教職員としてそろっており、講習会が繰り返し開かれている。また、新領域創成科学研究科メディカル情報生命専攻の講義は医科学研究所内でも聴講できる仕組みができています。その他に、頻繁に開かれる学友会セミナーやインフォーマルなセミナーで、国内外の研究者から直接研究の進展を学ぶことができる。

図書室は24時間体制で、土日祝日を含めいつでも利用可能である。

医科学研究所は学生の活発な研究活動を奨励し、意欲向上に資することを目的として、学生の優れた研究成果に対して毎年、学生優秀論文賞を授与し、表彰している。

近代医科学記念館

Medical Science Museum

近代医科学記念館は、東京大学医科学研究所が、1892年（明治25年）に北里柴三郎博士らにより伝染病研究所（伝研）として設立されてから半世紀以上にわたり、我が国の伝染病研究の中心として活躍した時代の貴重な歴史的資料の保存と紹介をしている。当時の伝研は、ワクチン、抗血清など細菌学的製剤の最大の製造所として、また、伝染病に対する医師・衛生行政関係者の教育や、細菌学的製剤の検定・認可を担当する機関として、伝染病研究・医療のあらゆる面に貢献していた。その後、抗生物質と衛生状態

の改善により伝染病研究の重要性が薄れる時代を迎え、伝研は先端医療の道へと舵を切り、1967年に医科学研究所として生まれ変わった。現在、感染症、がんその他の特定疾患の学理の解明とその応用を目指して、ゲノム医療、細胞・遺伝子治療等の先端医療の開発・研究を行っている。

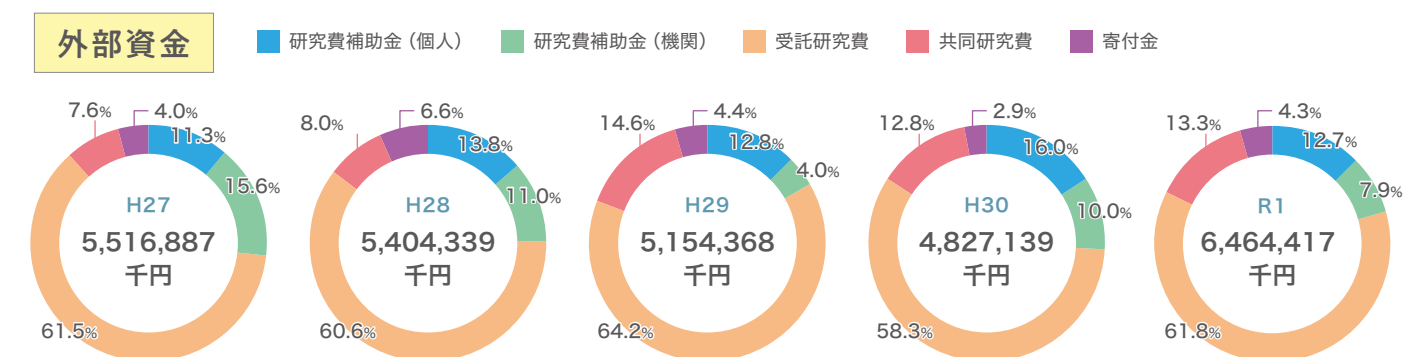
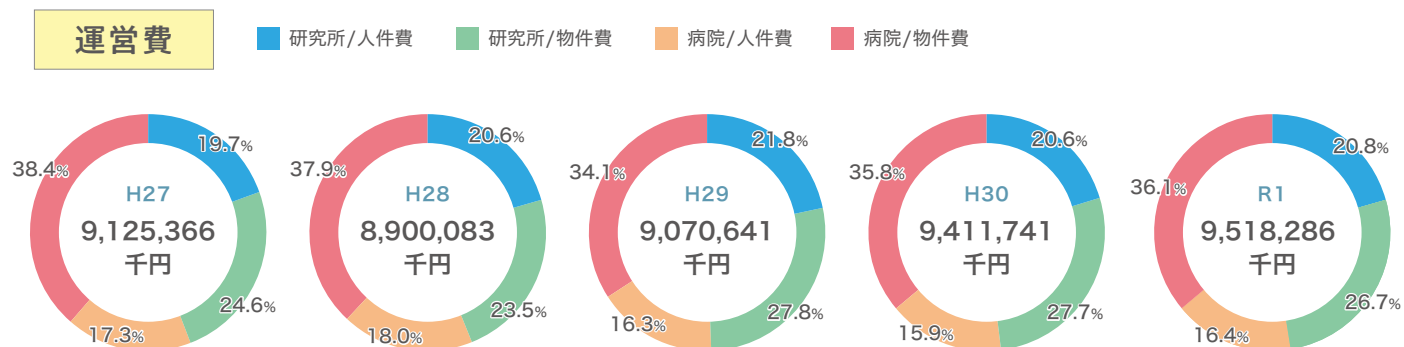
緑に囲まれて佇む、伝研時代の厩舎を模したレンガ風の建物と未来をイメージさせるガラスの館とのコントラストは、医科学の過去から未来へと思いを馳せる安らぎの空間となっている。



伝染病研究所所長 北里博士
1910年9月（明治43年）撮影
写真は東京大学医科学研究所近代医科学記念館所蔵



Budget 予算



Projects プロジェクト

(令和2年7月1日現在)

研究・教育プロジェクト

橋渡し研究戦略的推進プログラム
「『知の協創の世界拠点』を目指した
TRの戦略的推進と展開」

医科学研究所代表者 附属病院長 東條 有伸

新興・再興感染症研究基盤創成事業（海外
拠点研究領域）「中国拠点を基軸とした新興・
再興および輸入感染症制御に向けた基盤研究」

代表者 教授 川口 寧

ゲノム研究バイオバンク事業
「利活用を目的とした
日本疾患バイオバンクの運営・管理」

代表者 所長 山梨 裕司

研究・教育プロジェクト(概算要求分)

H28～R2年度

国際的な粘膜ワクチンの
戦略的な開発研究の推進

H28～R3年度

基礎・応用医科学の推進と先端医療の
実現を目指した医科学共同研究事業

H28～R3年度

感染症制御に向けた研究・人材育成の
連携基盤の確立

R2～R6年度

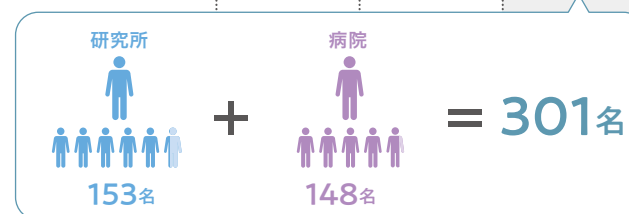
人知とAIの融合による新次元ゲノム
医療創出の基盤研究

Members 構成員

(令和2年7月1日現在)

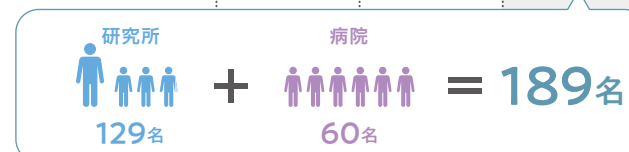
職員

	研究所	病院	計
教授	26	1	27
准教授	18	5	23
講師	3	5	8
助教	33	14	47
助手	1	0	1
事務職員	39	11	50
技術職員	33	112	145



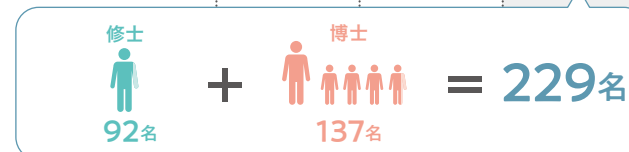
特定有期雇用職員

	研究所	病院	計
特任教授	5	0	5
特任准教授	11	1	12
特任講師	3	3	6
特任助教	12	2	14
特任研究員	33	1	34
学術支援専門職員	38	10	48
学術支援職員	25	7	32
特任専門職員	2	2	4
医療系(有期雇用)	0	19	19
看護系(有期雇用)	0	15	15



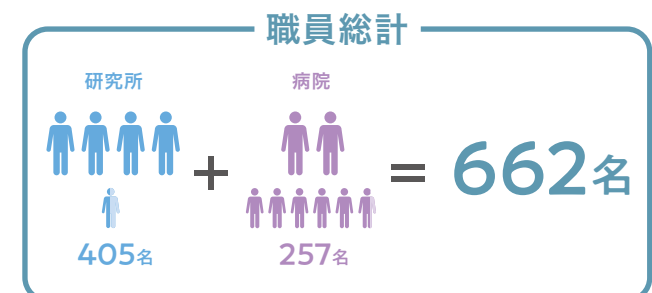
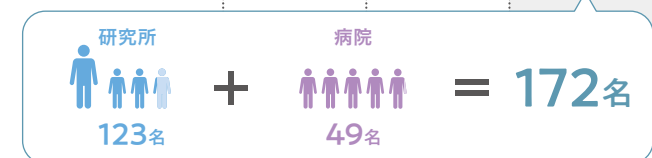
大学院生

研究科	修士	博士	計
医学系	2	59	61
理学系	9	7	16
薬学系	0	1	1
情報理工学系	4	3	7
新領域創成科学	62	53	115
学際情報学府	2	1	3
工学系	13	13	26



(特定)短時間有期雇用職員

	研究所	病院	計
特任教授	5	1	6
特任准教授	3	1	4
特任講師	0	0	0
特任助教	2	1	3
特任研究員	18	1	19
学術支援専門職員	19	2	21
学術支援職員	31	6	37
特任専門職員	0	2	2
特任専門職員	8	0	8
事務補佐員	14	8	22
技術補佐員	20	2	22
教務補佐員	1	0	1
技能補佐員	1	11	12
医員	0	9	9
専攻研修医	0	2	2
医療技術補佐員	1	2	3
看護技術補佐員	0	1	1



日本学術振興会特別研究員

	計
特別研究員 (SPD)	1
特別研究員 (PD)	2
特別研究員 (DC)	15
外国人特別研究員	0

18名

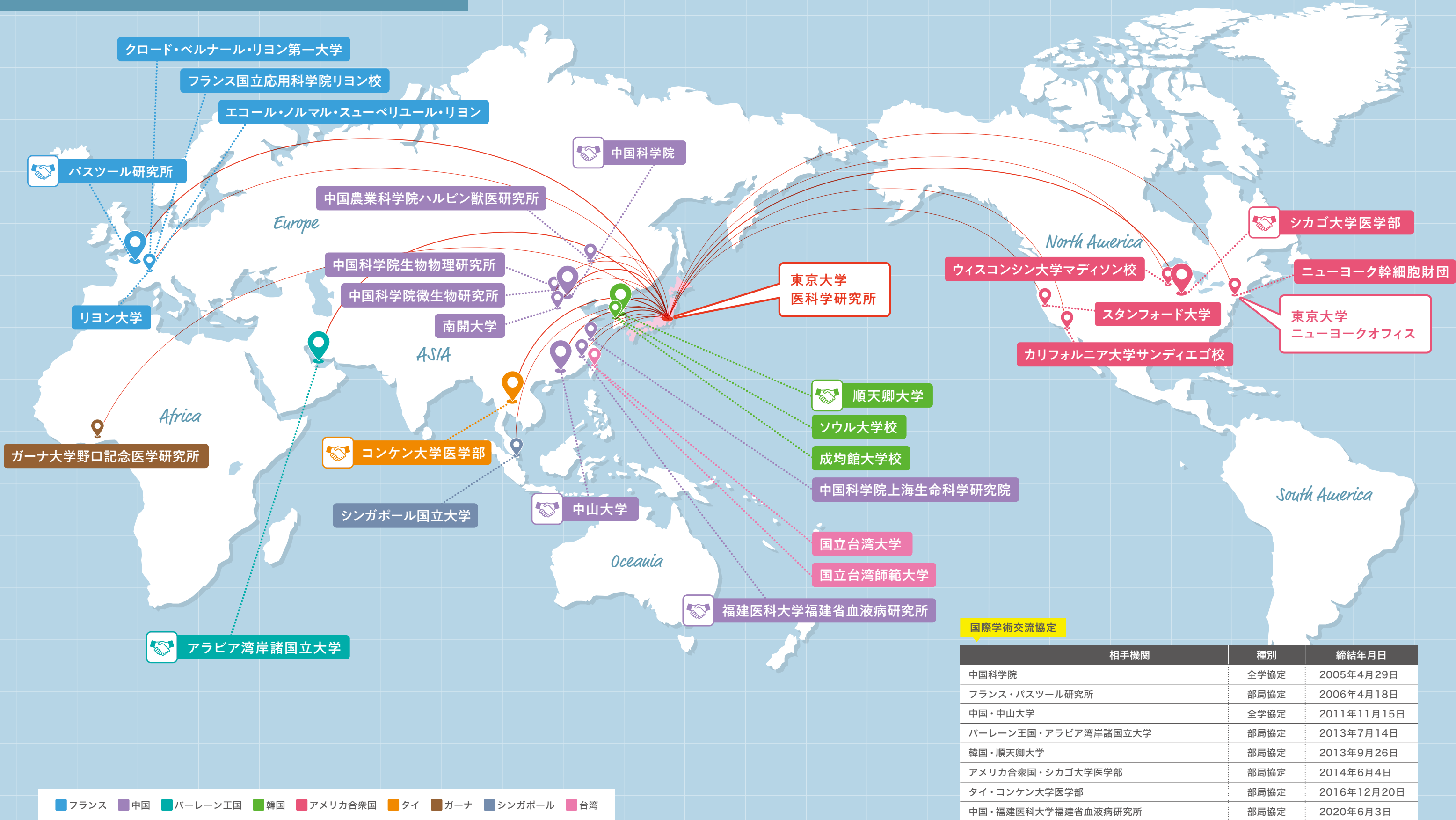
研究生

	計
大学院特別研究学生	16
大学院外国人研究生	2
医科学研究所研究生	5

23名

国際学術交流

International academic exchange



国際学術交流協定		
相手機関	種別	締結年月日
中国科学院	全学協定	2005年4月29日
フランス・パスツール研究所	部局協定	2006年4月18日
中国・中山大学	全学協定	2011年11月15日
バーレーン王国・アラビア湾岸諸国立大学	部局協定	2013年7月14日
韓国・順天卿大学	部局協定	2013年9月26日
アメリカ合衆国・シカゴ大学医学部	部局協定	2014年6月4日
タイ・コンケン大学医学部	部局協定	2016年12月20日
中国・福建医科大学福建省血液病研究所	部局協定	2020年6月3日

Campus Map キャンパスマップ



附属病院

- 病院受付 (外来診療)
- A** 附属病院A棟
- B** 附属病院B棟
- C** 附属病院C棟

大学施設

- | | | |
|-------------------|---------------------------|-----------------------|
| 1 1号館 | 7 総合研究棟 | 13 クレストホール |
| 2 2号館 | 8 臨床研究A棟 | 14 ヒトゲノム解析センター |
| 3 3号館 | 9 治療ベクター開発センターユニット | 15 近代医科学記念館 |
| 4 4号館 | 10 研究棟別館 | 16 白金ホール |
| 5 動物センター | 11 合同ラボ棟 | 17 バイオバンク |
| 6 アムジェンホール | 12 旧ゲノム解析センター | 18 テニスコート |

インターナショナルロッジ

- a** 白金台ロッジ A棟
- b** 白金台ロッジ B棟
- c** 白金台ロッジ C棟

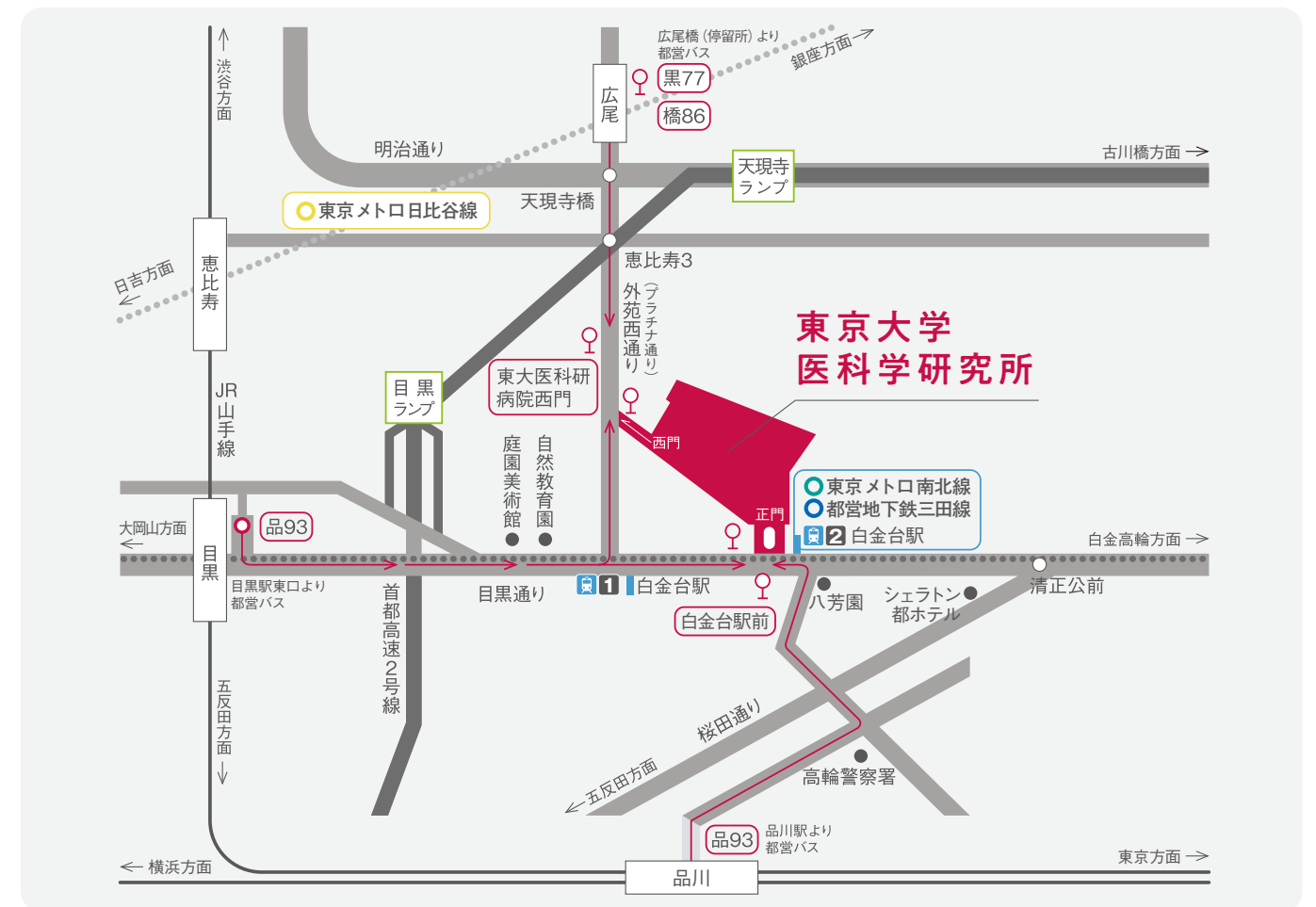
- | | |
|-------|---------|
| 病院案内所 | 駅 |
| 休憩所 | バス停 |
| レストラン | 駐車場 |
| 売店 | 患者専用駐車場 |

(単位: m)

敷地/建物	敷地	建物	
		延面積	床面積
白金台地区	研究所	11,548	54,126
	病院	3,305	23,259
	小計	68,907	77,385
奄美地区	8,834	805	805
計	77,741	15,658	78,190

所在地 医科学研究所 東京都港区白金台4-6-1
 奄美病畜動物研究施設 鹿児島県大島郡瀬戸内町大字手安字須手802

Access Map アクセスマップ

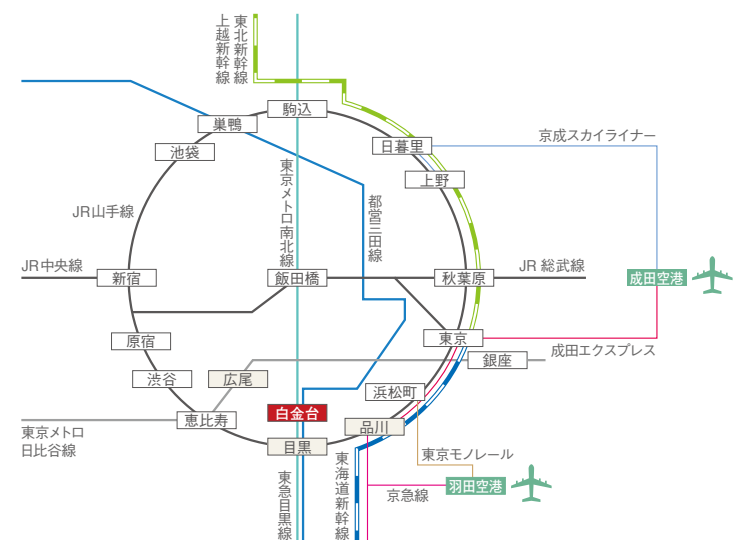


電車をご利用の場合



バスをご利用の場合

- 白金台** 東京メトロ南北線・都営三田線
「白金台駅」下車2番出口
(日吉坂方面出口)から歩いてすぐ
- 目黒** JR山手線「目黒駅」下車
東口から徒歩15分
- 品川** JR「品川駅」から都バス(品93)目黒駅前行で、
「白金台駅前」下車
- 広尾** 東京メトロ日比谷線「広尾駅」そばの「広尾橋」から
都バス(黒77)または(橋86)目黒駅前行で、
「東大医科研病院西門」下車



<https://www.ims.u-tokyo.ac.jp/imsut/jp/access/access/>
<https://www.ims.u-tokyo.ac.jp/imsut/jp/>

〒108-8639 東京都港区白金台4-6-1 TEL.03-3443-8111(代表)

